## 初めて處女作が世に出た時

## 小 野 仙 子

い處女作とはどういふものをさして

ます。 年前に すり湯」といふのが出たと思ひます。 ございませう。また同じ月の文章世界に「く 初めて文壇に出た作といふのならば、 だ書いてゐないつもりでも居ります。 私にはまだ處女作がないともいへます。 といふやうな意味を含んでるものならば、 とになりますし、そこによつて認められた ば、子供の時分投書なぞをしてた時分のこ いつてるのか私にはわかりませんから困 初めて書いたものつていふ意味なら 『趣味』に出た「ひと夜」がそれで その 六七 たゞ ま り

時分私はまだ先生の家に御厄介になつてあしたから、原稿も無論先生の手から行きました。私はまだくく自分の作が世間に紹介されよふなどりは思つてませんでしたから、されよふなどりは思つてませんでしたから、さのを待つて居りました。やがて雜誌が出るのを待つて居りました。やがて雜誌が出るのには馴れてましたから、さう際だつたをで達と並んで自分の作が置かれてあるといふのが馬鹿に嬉しいやうな氣がしました。それよりも嬉しかつたのは翌日になつてあるとれよりも嬉しかつたのは翌日になつてあるとれよりも嬉しかつたのは翌日になつてあるとれよりも嬉しかったのは翌日になつてあるといるのが馬鹿に嬉しいやうな氣がしました。

つて居ります。

ラツプブツクは今もそのま、それぎりにな だのと、それにたいていみなほめてありま 歸りが樂しみでした。毎日一つ二つは の名と日とを書き入れたものでした。 にそれを張りつけて、なほ一々それに新聞 クラツプブツクを下さいましたから、丁寧 は「これにはつておきたまへ。」といつてス したから餘計うれしうございました。 萬朝だの、中央だの、大阪毎日だの、 と仰言りました。それからは毎日先生のお てゐたぜ、ほめてあつた。今日は忘れて來 とで、先生が或日博文館から歸られると、 の切りぬきを持つて來て下さいましたから。 たがあした切りぬいて持つて來てやらう。」 つちこちの新聞にその批評が載つてゐたこ 「おい君、今日の讀賣に君の小説の評が出 國民

底本:「女の世界」第壹卷第五號

大正四(1915)年九月

公開:令和三年十一月三十日

リンク:水野仙子「作品年譜」